

新任職員紹介

介護員 (8月1日付)
大野三枝子

* 少しでも早く仕事を覚えて動けるようになり、あせらず余裕を持って、笑顔で利用者様と関わっていきたくて思っていますので、よろしくお祈りいたします。

看護職員 (9月21日付)
斎藤 万椰

* これまで病院で勤務していたので、施設は初めてですが、ご利用者様が安心して生活できるよう、精一杯がんばっていきたくて思っています。よろしくお祈りいたします。

介護員 (12月4日付)
井上美奈子

* 久しぶりの職場で不安はありますが、職員の皆様の助言により業務をスムーズに運べるよう努力し、職員の方々と利用者様の笑顔に励まされ、がんばって参りたいと思います。よろしくお祈りいたします。

人財確保

人口減少のなか、介護・福祉分野の人材確保は大きな課題になっており、県内でも様々な取り組みが行われています。

そのような中、当施設では11月16日に福島県社会福祉協議会主催の福祉・介護の職場見学会の受け入れを行いました。



また、新年度からは外国人材の受け入れについて、福島県老人福祉施設協議会や登録支援機関の協力を頂きながら準備を進めております。

施設内研修

コロナ禍の影響もあり、当施設では施設内研修を集合とオンラインのハイブリット式で実施しています。これにより、感染対策のみならず、育児や介護で夜間家を空けることが難しい職員も自宅から研修に参加でき、他職員同様に学習の機会を得ることができています。また、夜勤明けや休日の職員がわざわざ施設に出向く必要もなくなり、移動の負担も軽減できています。



居室担当介護員より

新年もよろしくお祈りいたします。最近のご様子をお知らせいたします。

様のご家族様へ

号室担当 より

編集後記

「北原荘だより」新春&四十周年記念号を何とか発行することができました。年末の慌ただしいなか、ご協力頂いた各方面の皆様から感謝を申し上げます。作業を進めるなか、改めてこの仕事の「立ち位置」について考える機会がありました。一つは、ひきこもりの人やその家族のサポート活動を行っているジャーナリスト・池上正樹さんのお話を聴講したこと。もう一つは、津久井やまゆり園の事件に着想を得て書かれた、辺見庸さんの小説を原作とした映画「月」を鑑賞したこと。生産性が求められ、同調圧力や差別がはびこる社会の中で、一人ひとりの命の尊さに向き合うこと、生きようとする思いに寄り添うこと。今号の座談会で北原荘立ち上げに関わられた諸先輩の話の伺いながら、時代は変遷すれど、基軸を見失わないで居続けることの大切さを実感させられました。スケジュール調整は難航しましたが、よかった。

北原荘居宅介護支援センター

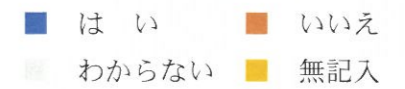
新年明けましておめでとうございます。



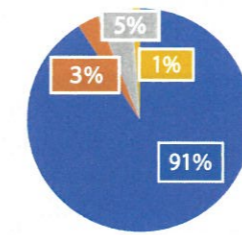
当事業所では、今年度もアンケートを実施させていただきました。アンケートの中で、「親切、丁寧な対応に満足している」とのご意見を多く頂きました。アンケート結果は下記のとおりです。ホームページ上にも掲載しております。

今後も利用者本位のサービス提供につなげて、昇り竜のように力強く飛躍する年になりますよう、職員一同頑張っております。

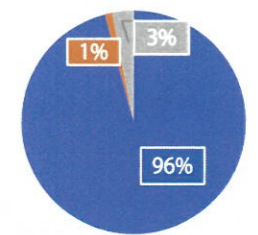
アンケートの結果



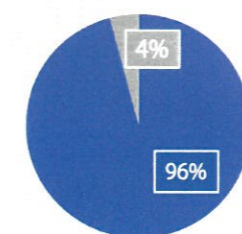
■担当ケアマネジャーは複数の事業所(デイサービスやヘルパー等)から選べるように特徴や料金を分かりやすく説明していますか。



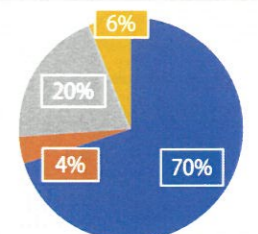
■担当ケアマネジャーの説明はわかりやすいですか。



■ご本人やご家族がお願いしたいことをケアマネジャーはきちんと事業所(デイサービスやヘルパー等)に伝え素早く対応していますか。



■当事業所で配布している広報紙(あれこれ通信)は興味を持って見て頂いていますか。



■担当ケアマネジャーは相談しやすい雰囲気ですか。

